

令和4年度第9回公立大学法人滋賀県立大学役員会議事録

日時・場所：令和4年12月20日（火）15:30～17:00 教授会室

出席者：廣川理事長、宮川副理事長、山根理事、安原理事、高橋理事、林理事、上原理事、
山本監事、元永監事

事務局：八里事務局次長、山田総務課長、高木財務課長、寺村経営企画課長、
川分学生・就職支援課長、郡田教務課長、山中地域連携・研究支援課長、
長谷川高等専門学校開設準備室室長補佐、前田課長補佐、藤居主幹

令和4年度第8回公立大学法人滋賀県立大学役員会議事録（案）は、原案どおり承認された。

議 題

（審議事項）

1 学科名変更にかかる学内規程等の改正について

山田総務課長から資料に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

2 「令和の時代の滋賀の高専」施設整備基本計画（素案）について

長谷川高等専門学校開設準備室室長補佐から資料に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

〔主な意見・質疑等〕

- ・来年度開設される徳島県の高専ではベンチャーやAIなどに絞り込んでいるようであるが、本県の高専ではコンセプトや基本計画を策定するに当たり、どのようなプロセスで意見が吸収されているか。

⇒有識者の参加する滋賀県の懇話会において議論されたが、徳島県の例とは違い、従来のものづくりを重視された。

- ・基礎的な教育だけでなくビジネスへの展開も含めた人材育成についても考えていただきたい。
- ・想定経費が101億円となっているが、その積算根拠は何か。この金額で十分かどうかはどこで説明され、審議されるのか。

⇒想定経費は、県立高校の事例などをもとに滋賀県で査定されたものである。

- ・なぜ従来方式ではなく、PFI方式を採用するのか。

⇒定量的にはVFM（Value For Money）においてPFIが有利と判断されることに加え、定性的にも、設計から維持管理までの一括発注により維持管理・運営がしやすい施設計画とすることが可能となるなどのメリットが考えられる。一例として、横浜市の学校におけるPFI事業においても、様々な効果があったとの報告が出されている。

3 令和4年度補正予算（案）について

八里次長および高木財務課長から資料に基づき説明があり、契約スケジュールについて再度検討のうえその結果を報告することとしたうえで、原案のとおり承認された。

[主な意見・質疑等]

- ・入札スケジュールに関して、公募期間が短いので、事前に落札業者が決まっているのではないかと疑われかねない。
⇒県で過去に同様の事例があり、問題ないと聞いている。しかし、もう少し公募期間を長くできないか再度検討をする。

[補記]

- ・役員会での上記の意見を踏まえ、企画提案書等の提出締切を1月17日から1月20日に変更する等、公募期間を3日間延長することとした。

4 団体役員賠償責任保険について

山田総務課長から資料に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

(報告事項)

1 令和4年度中間決算の概要について

高木財務課長から、資料に基づき報告があった。

2 令和5年度予算要求状況について

高木財務課長から、資料に基づき報告があった。

3 令和5年度滋賀県立大学学校推薦型選抜等特別選抜試験の受験状況について

郡田教務課長から、資料に基づき報告があった。

(その他)

1 公立大学法人滋賀県立大学職員給与規程の改正について

山田総務課長から、資料に基づき説明があった。

2 その他

高木財務課長から、未来人財基金に関して、資料に基づき説明があった。

[主な意見・質疑等]

- ・履修登録に関する報道を目にしたが、どういう問題であるのか説明していただきたい。
⇒学生に不利益になるような制度変更はしていないが、一部に履修登録の変更が認められなくなったと誤解した学生がいたものである。